

悪童日記

アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳

内容理解

この文章で作者は、「ぼくら」の視点で、戦時下に「ぼくら」に起こった真実を綴り、戦時下のある出来事を描こうとしている。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

おばあちゃんの家に到着する

・ぼくらは、〈大きな町〉から、道を行き交うのは¹ トラックだけの〈小さな町〉にあるおばあちゃんの家にやって来る。荷物は、大きなボール紙の箱と、衣類を詰めた小さな旅行カバンとおとうさんの大きな² だけだった。

・おかあさんは、町の子供たちが親戚のもとでも見ず知らずの人ののもとでも、とにかくどん³ させられていること、父親は前線に行つて⁴ が途絶えていることを告げ、子供たちをおばあさんに託す。

・おばあさんは、「この子たちに働いてもらう」と言い、おかあさんが泣き顔で去っていくと、「おまえたちに、生きるつていうのはどういふことか教えてやるわい!」とぼくらに言った。

ぼくらは、ペロを出して見せると、おばあちゃんは腿を叩いて高らかに笑った。

← ぼくらの学習

- ・ぼくらは、おとうさんの辞典と屋根裏部屋で見つけた⁵ を教材に、正書法、作文、読本、暗算、算数、記憶の練習を始める。
- ・作文は、互いに題を出し合い、互いに綴り字の誤りを正し、互いに「良」「不可」で評価した。「良」なら清書し、「⁶ 」なら同じ題で再挑戦した。

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

要領（二四・下14）

参照（二五・上4）

客観性（二五・下10）

証拠（二七・下9）

(評価の基準)

内容は⁷

でなければならない。記述するのは、あるがままの事物、

ぼくらが見たこと、ぼくらが聞いたこと、ぼくらが実行したこと、でなけ

ればならない。

評価の例

許される書き方[↑]

↓禁じられている書き方

人々はおばあちゃんを〈魔女〉と呼ぶ。[↑] ↓おばあちゃんは魔女に似ている。

従卒はぼくらに毛布をくれる。[↑] ↓従卒は⁸だ。

ぼくらはクルミの実をたくさん食べる。[↑] ↓ぼくらはクルミの実が好きだ。

おかあさん

・赤ん坊を抱くおかあさんと外国人の将校がジープから降りてきて、ぼくらを連れて行こ

うとした。ぼくらは残りたい、おばあちゃんも子供たちは返さないと言う。

・おかあさんが⁹しても、ぼくらは屋根裏部屋に逃げ込んで降りてこない。

・おかあさんを抱きかかえ、押しのけられた将校がジープのエンジンをかけたとき、庭に
落ちた砲弾がおかあさんと赤ん坊の命を奪う。¹⁰ ¹⁰が空けた穴に、ぼくらはおか

あさんと赤ん坊を寝かせ、毛布で覆い、穴を埋めた。

作品の結びとなる「ぼくら」の言葉――

「砲弾が落ちて、庭に穴が空いたんだ」

主題

この作品で作者はどのようなことを描こうとしたと思われるか、次のことに着目して、百字程度
でまとめてみよう。 〈着目点…作品の結びとなっている「ぼくら」の言葉〉

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の
書籍やインターネットなどを使って調べてみよ
う。

・アゴタ・クリストフには、他にどのような作
品があるか。

・クリストフが経験した「ハンガリー動乱」と
は、どのような出来事だったのか。

・クリストフは、母語のハンガリー語でなく、
どうしてフランス語で執筆したのか。

・近代の戦争では、兵士以外にも多くの命が失
われる。第二次大戦では、どのような例があ
るか。

100